

# 目次

凡例

序論 ----- 1

本論 ----- 7

第一章 土田杏村の教育観の転換の現代的意義 ----- 7

- イリイチを例とした概念分析の視座の確保の必要性 -

第一節 スクーリング批判 ----- 7

第二節 ホモ・エデュカンドス批判 ----- 13

第三節 自己循環する教育概念 ----- 19

第二章 土田杏村の「使命」自覚への過程 ----- 28

第一節 幼少年時代 - 「つよい決心」をもつ「神童」 - ----- 28

第二節 新潟師範学校時代 - 懐疑的思考の萌芽 - ----- 33

第三節 東京高等師範学校時代 - 「他ヲ軽視スル」杏村 - ----- 38

第四節 東京高等師範学校卒業から京都帝国大学進学までの時期 ----- 54

- アイデンティティの危機 -

第五節 京都帝国大学時代 ----- 61

- 「使命」の自覚によるアイデンティティの再構築 -

第三章 杏村の問題認識と文化主義の提唱 ----- 87

第一節 大正期の日本のアカデミックな哲学界の状況 ----- 88

第一項 アカデミックな哲学界における流れ

第二項 カント哲学 - 認識の「形式」 -

第三項 ヘーゲル哲学 - 認識の発展 -

第四項 新カント派の哲学

第五項 日本の哲学界におけるカント - 新カント派の哲学の受容 -

第六項 カント哲学とヘーゲル哲学に対する杏村の評価

第二節 杏村の原初的な問題意識と二つの基本姿勢 ----- 121

第一項 創作としての評論

第二項 評論の具体と抽象

第三項 抽象から具体へ - 概念の具体化 -

第四項 具体的問題解決のための「公準」としての愛 - 価値の創造 -

第五項 無批判な価値 - 人道主義者の欠陥 -

第三節 「神秘的象徴主義」と『象徴の哲学』に示された杏村の認識論 -- 154

第一項 「体験の世界」を看過した一般的な現実認識

第二項 杏村の認識論上の立場としての「神秘的象徴主義」

第三項 文芸上の「神秘的象徴主義」

- 第四項 杏村による「神秘的象徴主義」の哲学史上の位置づけ
- 第五項 『象徴の哲学』に示される杏村の認識論
  - 「あるがまま」の見方の論理的説明 -

第四節 杏村の文化主義 ----- 185

- 第一項 大正文化主義について
  - ① 一般的な大正文化主義認識
    - 超越的・普遍的価値としての文化価値の実現をめざす文化主義 -
  - ② 桑木巖翼と左右田喜一郎の文化主義
    - 「事実以上」を目指すための文化 -
- 第二項 杏村の基礎的認識 - 文化が必要な現状 -
  - ① 杏村の「現状」認識 - 価値と存在の分裂 -
  - ② 杏村の「学問」認識 - 現状認識から要求される「文化学」 -
- 第三項 杏村の「文化」概念
- 第四項 杏村の文化主義
  - ① 文化主義 にもとづく現実批判
  - ② 社会改造論に対する 文化主義 からの批判
  - ③ 文化主義 の改造原理 - 「人格」にもとづく改造論 -

第四章 杏村の社会改造論の根底にある人格主義と理想主義 ----- 238

第一節 杏村の人格主義 ----- 239

- 第一項 社会改造論の一般的な傾向と哲学への期待
- 第二項 文化についての杏村の価値的見方と事実的見方
- 第三項 人格概念の移入と求められる人格
- 第四項 阿部次郎の人格主義
- 第五項 杏村の人格主義 - 阿部の人格主義への批判から -
- 第六項 人格の「自由」と「奉仕」

第二節 杏村の社会概念と国家概念 ----- 274

- 第一項 社会への注目とその概念の不在
  - 「社会」概念に関する当時の状況 -
- 第二項 先行研究における杏村の「社会」概念分析
- 第三項 杏村が分析する「社会」概念 - 人格の論理的成立 -
- 第四項 教育目的論における個人と社会の対立
  - 理念としての社会概念からみた対立の本質把握 -
- 第五項 杏村の「国家」概念分析
  - ① 「国家」概念の成立
  - ② 個人と国家の関係
  - ③ 国家の本質
- 第六項 社会と国家 - 多元的社会観における社会と国家の関係 -

第三節 杏村の理想主義 ----- 308

- 第一項 社会批判の観点としての理想社会
- 第二項 杏村の社会改造論の根底にある理想主義
- 第三項 理想主義に対する批判への杏村の反論
- 第四項 社会改造論における理想主義の必要性

- 理想主義の根底にある人格主義 -

第五章 杏村の社会教育学 -----	330
第一節 教育に関する杏村の批判的認識 - 教育目的論の必要 - -----	330
第一項 杏村の批判的社會認識	
第二項 教育の諸問題	
第三項 教育目的論の必要 - 目的の独特な性質 -	
第四項 日本の教育思潮に関する批判	
第二節 プロレットカルトの導入 -----	353
第一項 杏村の考える教育の目的	
第二項 批判的教育学について	
第三項 批判的教育学の欠点	
第四項 杏村の求める批評的態度	
第五項 杏村の教育観を支えるプロレットカルト	
第三節 杏村の社会教育学 -----	373
第一項 社会教育に対する杏村の批判	
第二項 「社会教育学講座」の特徴	
第三項 社会教育学が成立する根拠	
第四項 教育の意義と理想	
1 教育現象について	
2 文化的態度の啓発	
3 教育的態度の意義	
4 教育と歴史的社会的な生活	
5 教育理想の三重性	
第五項 社会教育学の根拠としての自由大学	
第六項 杏村に関する先行研究の現状 - 教養主義の問題をめぐって -	
結論 -----	423
資料目録 -----	437